

ダニエル書 - 第百九十三

終末の啓示：ロシアの運命からトランプの復帰、そして獣の像の形成まで

Jeff Pippenger

2024-04-23

近い将来、ロシアはウクライナでの戦争を勝利で終わらせ、その勝利はプーチンとロシアにとって終わりの始まりであることが明らかになるだろう。ゴルバチョフが自らの帝国を再編（ペレストロイカ）し、その後国連に逃れたのと同様に、政治的なロシアは国連の権威の下に置かれ、宗教的なロシアはローマ教皇庁の支配下に置かれるだろう。2024年にトランプが当選し、民主党のグローバリストと、共和党を名乗るグローバリストに打ち勝ち、プーチンとロシアの崩壊に伴う余波を收拾する目的で、国連のグローバリストと同盟を結ぶだろう。その後、ツロの淫婦がロシアのために執り成すだろう。

パニウムの戦いにおいては、40節の三つの戦いのうち最初の戦いの歴史が繰り返される。1989年のソ連崩壊によって表されている最初の戦いでは、最後の八人の大統領の最初の者が、ローマ教皇庁の代理軍として務めた。その最初の大統領は共和党員であり、それは最後の者も共和党の大統領になることを示している。最初の大統領は鉄のカーテンの壁に関するレトリックで知られており、それは予言的な道標として、1989年11月9日にベルリンの壁が崩壊したときに取り払われた。最後の共和党の大統領は、アメリカ合衆国の南部国境の壁に関するレトリックで知られるようになり、壁を築くというトランプの証しを標す道標は日曜法となる。そこでは、象徴的な「政教分離の壁」が取り払われる。

その最初の大統領は、鋭い話術とユーモアのセンスで知られた、かつてのメディア界のスターだった。最後の大統領も、鋭い話術とユーモアのセンスで知られる、かつてのメディア界のスターである。1989年は、ソビエト連邦として知られる帝国が崩壊した年であり、第四十節にある三つの戦いのうち最後のものは、ロシアとして知られる帝国の崩壊を表している。

パニウムの戦いは、四十節における第三にして最後の戦いであり、それは最初の戦いによって予表されていた。最初の戦いが終わったとき、全世界は、世界で唯一の超大国がアメリカ合衆国であることを認めた。その世界支配は最後の戦いの終結時に繰り返される。というのもそこでは、アンティオコス3世とマケドニアのフィリッポスの間に結ばれた同盟（アメリカ合衆国と国際連合）にもかかわらず、アメリカ合衆国（偽預言者）が、十人の王たち（竜—国際連合）の第一の王として確立されるからである。

第40節の三つの戦いは「真理」の印を帯びている。というのも、最初の戦いが最後の戦いを象徴し、中間の戦いが反逆を象徴しているからだ。最初と最後の代理軍（米国）はいずれも勝利を収めるが、第二の代理軍は敗北する。そしてその第二の代理軍とは、反逆の世界的象徴であるナチズムである。

ドナルド・トランプの三度の選挙戦は「真理」の刻印を帯びている。というのも、彼は最初と最後の選挙戦では勝利するが、中間の選挙戦では無神論の獣、すなわち竜の力によって敗北するからである。それは再び反逆の象徴であり、ヘブライ文字の第13文字で表さ

れ、その文字を最初と最後の文字と組み合わせると、ヘブライ語の「真理」という語が形作られる。

ダニエル書11章10節は1989年に終わりの時を示しており、16節はまもなく来る日曜法を示している。10節から15節は40節の隠された歴史を表しており、それは終わりの時まで封じられていたダニエル書の一部である。10節から15節を（行に行を重ねるように）40節の隠された歴史に当てはめると、終わりの時に関するダニエル書の部分の封印が解かれる。その部分の封印が解かれるのは、まもなく来る日曜法において安息日遵守者の猶予期間が閉じられる直前である。ゆえに、それは最後、すなわち第七の封印を表している。

彼が第七の封印を開いたとき、天にはおよそ半時間の静けさがあった。私は、神の御前に立つ七人の天使を見た。彼らには七つのラッパが与えられた。また、別の天使が黄金の香炉を持って祭壇の前に来て立った。彼には多くの香が与えられ、それを、御座の前にある金の祭壇の上で、すべての聖徒たちの祈りと共にささげるためであった。聖徒たちの祈りと共に立ちのぼる香の煙は、天使の手から神の御前に上っていった。天使は香炉を取り、祭壇の火でそれを満たして地に投げつけた。すると、声と雷鳴と稲妻と地震が起こった。そして、七つのラッパを持つ七人の天使は、吹き鳴らす用意をした。黙示録 8:1-6。

七つのラッパを持つ七人の天使は、アメリカ合衆国における日曜法の時に始まる執行審判を表し、また、ミカエルが立ち上がり人類の恩恵期間が閉じられるときに始まる執行審判も表している。最初の期間、すなわち日曜法からミカエルが立ち上がるまで、神の裁きはあわれみと混じっているが、その後の最後の七つの災いは、あわれみの混じらない神の裁きである。第七の封印の開封は、七人の天使が表すように、執行審判が準備されている時である。

ダニエル書二章と九章は、「聖徒たちの祈り」を、ネブカドネザルの獣の像に関する隠された夢に関連する出来事を理解するための祈り、そしてレビ記二十六章の「七たび」に関連する悔い改めと告白であると示している。神の御前に立ちのぼった「金の香炉」からの香の煙に混ぜられた祈りは、祭壇からの火が地に投げ込まれるその時に生ける神の印を受ける、十四万四千のうちに加えられるよう召された者たちによってささげられる。

エゼキエル書第九章では、同じ聖徒たちが、その地と教会で行われている忌むべき行いのゆえに嘆き泣き、彼らが罪を深く悔いると、封印する天使が彼らの額に印を付ける。黙示録第八章と同様に、滅ぼす天使たちによって象徴される裁きは、封印が完了したとの命令を待って、背後で控えている。

寸分の狂いもない精確さで、無限なるお方は今なお、すべての国々に対して勘定をつけておられる。悔い改めへの呼びかけとともにその憐れみが差し伸べられている間は、この勘定は開いたままである。しかし、その数字が神の定めた一定の額に達すると、神の怒りの執行が始まる。勘定は締められる。神の忍耐は尽きる。彼らのために憐れみを嘆願することは、もはやない。

予言者は、世々を見渡し、彼の幻にこの時代が示された。

この時代の諸国民は、かつてない慈しみを受けてきた。天の祝福のうち最も選りすぐりのものが彼らに与えられたが、増し加わる高慢、貪欲、偶像礼拝、神への侮蔑、卑

しい忘恩が彼らに対して記されている。彼らは神との清算を急速に迎えつつある。

しかし、私を震え上がらせるのは、最も大きな光と特権を与えられてきた者たちが、はびこる不義によって汚されてしまったという事実である。周囲の不義の者たちに影響されて、真理を告白する者でさえ多くが冷え込み、悪の強い潮流に押し流されている。真の敬虔と聖さに広く浴びせられる嘲りは、神と密接に結びついていない者たちから、神の律法への畏敬を奪う。もし彼らが光に歩み、心から真理に服しているなら、この聖なる律法は、このように侮られ退けられるときにこそ、彼らにはいっそう尊く思われるはずである。神の律法への軽蔑がいよいよ明白になるにつれて、それを守る者たちと世との間の境界線はいっそう鮮明になる。神の戒めへの愛は、ある者たちの間では増し加わり、別の者たちの間でそれらへの軽蔑が増すのに応じて高まってい

く。

危機は目前に迫っている。急速に膨張する数値は、神の訪れの時がいよいよ来ようとしていることを示している。神は罰することを厭われるが、それでも罰し、それも速やかに。光のうちを歩む者は、近づく危険のしるしを見るだろう。しかし彼らは、神が訪れの日にご自分の民を守ってくださるという信念で自らを慰め、滅びを静かに、無関心のまま待ち受けて座してはならない。決してそうではない。彼らは、神の助けを強い信仰をもって仰ぎつつ、他の人々を救うためにたゆまず働くことが自分の務めであると悟るべきである。「義人の切なる祈りは大いに力がある。」

敬虔のパン種は、完全にその力を失ってはいない。教会に危機と落胆が最も深まる時、光のうちに立つ小さな群れは、この地で行われている忌むべき行いのゆえに嘆き叫ぶであろう。だが、とりわけ彼らの祈りは教会のためにささげられる。というのも、その信徒たちが世のならいにならって行動しているからである。

この忠実な少数者の切なる祈りは、むなしくはならない。主が復讐者として出て来られる時、主はまた、信仰を純粋なままに保ち、この世から汚れのない者として自らを守ってきたすべての者の守り手としても来られる。まさにこの時、昼も夜も神に向かって叫び求めるご自分の選民のために、たとえ彼らに対して長く忍耐しておられるとはいえ、神は復讐すると約束しておられる。

命令はこうである。「町のただ中、すなわちエルサレムのただ中を通り、その中で行われているすべての忌むべきことのゆえに嘆き、叫ぶ者たちの額にしるしを付けよ。」このように嘆き、叫ぶ者たちは、いのちの言葉を掲げていた。彼らは戒め、忠告し、懇願した。神の名を汚していた者の中には、悔い改めて御前に心を低くした者もいた。しかし、主の栄光はイスラエルから去っていた。多くの者がなお宗教の形式を守り続けていたが、主の力も御臨在も欠けていた。『証言』第5巻、208-210。

十節から十五節は、四十節の隠された歴史の封印を解き明かし、同時に、第二章におけるダニエルと三人の勇士、そして第九章におけるダニエルによって示されている祈りの条件を満たした者たちの上に、いまや十四万四千人への封印が行われつつあることを明らかにしている。二つの祈りの相違は、（ダニエル書第二章の）預言の外的出来事を理解するための祈りと、（ダニエル書第九章の）預言の内的経験を実現するための祈りとして認識できる。もう一つの相違は、聖徒たちは共同体として（ダニエル書第二章の）獣の像に関する試練のメッセージを理解しようと求めているが、個々人としては（ダニエル

書第九章の) 完全な悔い改めの働きを成し遂げなければならないという点である。彼らの祈りはエゼキエル書第九章の文脈においてなされなければならない。というのも、彼らはこの地と教会の罪に心を痛め、嘆き悲しまなければならないからである。

御怒りが裁きとして下される時、キリストに謙遜に、献身的に従う者たちは、嘆きと涙、戒めと警告となって表れる魂の苦悩によって、世の他の人々と区別されるであろう。ほかの者たちが現にある悪を覆い隠し、至る所にはびこる大いなる邪悪を正当化しようとする一方で、神の栄誉のための熱心と魂への愛を持つ者たちは、誰の歓心を買うためにも沈黙を守ることはない。彼らの義なる魂は、不義なる者の不敬虔な業と言動によって日ごとに悩まされている。押し寄せる不義の濁流を食い止める力はなく、ゆえに悲嘆と恐れで満たされる。大いなる光を与えられてきた人々の家庭そのものにおいて信仰が軽んじられているのを見て、彼らは神の前に嘆く。教会の中に高慢、貪欲、利己、そしてほとんどあらゆる種類の欺きがあるゆえに、彼らは嘆き、自らの魂を苦しめる。戒めへと促す神の御霊は踏みにじられ、その間にサタンのしもべたちは勝ち誇る。神は辱められ、真理は無効にされている。

自分自身の霊的な退歩を痛まず、また他者の罪を悼みもしない者たちは、神の印を持たないままにされる。主はその使者、すなわち手に殺戮の武器を持つ者たちに命じられる。「彼の後を追って町の中を行き、打て。容赦するな、憐れむな。老いも若きも、処女も幼子も女も、ことごとく殺せ。ただし、印のある者には近づくな。わたしの聖所から始めよ。」そこで彼らは、家の前にいた長老たちから始めた。

ここで私たちは、教会-主の聖所-が、神の怒りの打撃を真っ先に被ったことを知る。古老たち、すなわち神から大いなる光を与えられ、民の霊的利益の守護者として立ってきた者たちが、その委ねられた務めを裏切った。彼らは、もはや昔のように奇跡や神の力の顕著な現れを求める必要はないという立場を取った。時代は変わったのだ。この言葉が彼らの不信を強め、こう言う。「主は善を行うことも、悪を行うこともない。」主はあまりにも憐れみに富んでおられるので、裁きをもってご自分の民を訪れはなさらない。こうして、『平安と安全』という叫びが、もはや二度とラッパのように声を上げて、神の民にその背きとヤコブの家にその罪を示そうとはしない人々から発せられる。吠えることをしないこの口のきけない犬どもこそ、侮られた神の正しい報復を身に受ける者たちである。男も乙女も幼子も、皆ともに滅びる。『証言』第5巻、210、211頁。

ダニエル書11章の1節と2節は、1989年の終わりの時から始まり、10節も同様である。2節は歴史をドナルド・トランプの第1期まで進め、その「6番目に裕福な大統領」から、アレクサンドロス大王によって表される第七の王国（国際連合）に至るまでの隠された歴史を残している。2節の富める王クセルクセスとアレクサンドロス大王の間には、ペルシアの王が八人いた。2節から3節に至る隠された歴史は、八人の王を表している。したがって、トランプの第1期の終わりから聖書預言の第七の王国に至るまで、ダニエル書11章の2節から3節にまたがる隠された歴史には、合計で十人の王が存在する。

十という数は試練の象徴であり、まさにその歴史において起こる試練は獣の像の形成である。6番目に裕福な大統領は2015年の最初の選挙戦からグローバリストたちを挑発し、そのことによって黙示録第11章の二人の証人と無神論の竜の獣との闘いの幕開けを画し

た。それは16節と41節の日曜法に至るまで終わらない。その戦いの中で、ドナルド・トランプは竜を挑発した最初の大統領であり、また最後の大統領でもある。トランプは地の獣の最後の大統領であり、トランプは第七の王国の最初の指導者となる。こうしてトランプは十人の王の最初と最後を表し、十は試練を象徴する。

1776年、1789年、1798年は、第8代大統領が七人に属することを立証する三つの歴史を表している。1776年は独立宣言の公布と、第一次および第二次大陸会議の歴史を表している。1789年は連合規約が作成された時代を表している。この時期は1781年に始まり、1789年の合衆国憲法の公布で終結した。1798年は、外国人および治安妨害諸法の公布と、聖書の預言における第六の王国としての地の獣の始まりを表している。

大陸会議は、最初の会議と最後の会議という二つの預言的な期間に分けられる。第一回大陸会議には二人の大統領がいて、ペイトン・ランドルフが最初の大統領だった。第二回大陸会議には六人の大統領がいた。ペイトン・ランドルフは、第一回大陸会議と第二回大陸会議の両方で最初の大統領だった。第一回および第二回大陸会議の歴史を通じて、大統領は合計八人いた。ペイトン・ランドルフは第一回と第二回の大陸会議のいずれにおいても最初の大統領であり、八人の大統領がいた預言的な期間において、二つの期間それぞれの最初の大統領は同一人物だった。したがって、大統領任期は八つあったが、実際には大統領は七人しかいなかった。最初の大統領は、七人の大統領のうちで二度、最初の大統領となったので、ランドルフは七人のうちの一人でありながら八番目を表す者であり、二人の証人によって彼は最初の実際の大統領、すなわちジョージ・ワシントンに象徴する。

ワシントンはランドルフに象徴されており、そのためワシントンの象徴としてのランドルフは、初代大統領であるランドルフの預言的な特性と、ランドルフが七人に属しつつ第八でもあったということの双方を示している。したがって、初代大統領にして初代最高司令官であるジョージ・ワシントンは、預言的には第八でもあり、七人のうちの者でもあった。そして、最後の大統領であるトランプもまた、第八であり、七人のうちの者となる。

第二次大陸会議の第二代議長はジョン・ハンコックだった。第二次大陸会議は1781年に終わった。1781年から1789年は、連合規約の時代にあたる。この時代は、憲法が公布された1789年という年によって象徴される。その期間には議長が8人いた。連合規約は最初の憲法に当たったが、その弱さのために置き換えられ、1789年には13の植民地が憲法を批准した。

その時期の八人の大統領は、前の二度の大陸会議が表す時期の歴史において大統領ではなかった七人と、最初の預言的時期に大統領であった一人から成っていた。ジョン・ハンコックは第二次大陸会議にも、また連合規約が表す時期にも務めた。預言的な次元では、二度の大陸会議の期間に大統領であった者は七人しかいなかった。したがって預言的には、ジョン・ハンコックは連合規約の時期における八人のうちの一人であると同時に、前の時期の七人のうちの一人でもあった。ゆえに彼は、七人に属しつつも第八の者であった。

1781年から1789年に表される第二の預言的時期は、第一の時期と同様に、八番目であり、なおかつ七人のうちの一人でもある大統領（ハンコック）がいたが、これは1776年に

表される第一の預言的時期におけるランドルフと同様である。

八人の大統領から成る二つの時期のいずれにおいても、七人に属する八番目という謎が表されている。これら二つの時期は、最初の真の大統領（ワシントン）にも、ランドルフが示す彼の類型によって、その象徴性に預言的な謎が付随していたことを証している。これら三つの証しはトランプを指し示している。第十一章の一節と二節において示されているトランプは、彼の一期目に限って描かれており、二度目の選挙が底なしの淵からの獣に盗まれたときに終わった。

それらの節を成就した歴史には、最も富める王（クセルクセス）の時点から、十人の王がしばらくの間第七の王国となる日曜法を象徴するアレクサンドロス大王の登場に至るまでの間に、隠された歴史が含まれている。富める王と、第七の王国をローマ教皇権に与えることに同意する十人の王との間には、八人の王がいた。第二節から第三節にかけての隠された歴史を成すその八人の王については、1776年、1789年、1798年の歴史に、八人の大統領という二重の証しが見いだされる。

その歴史は22年という象徴性を帯び、神性が人間性と結び合わされるときに144,000人の封印の歴史であることを示している。またそれは「Truth」の証しも帯びている。なぜなら、始まりは独立を示し、終わりは独立の撤回を示しており、しかも1776年から13年後に13の植民地が憲法を批准したからである。さらに、8人の王（大統領）からなる二つの期間をも示しており、いずれにも「七つに属する八番目」という謎が含まれている。

トランプは、2016年の第六の大統領として、また第六の王国の最後の指導者として、連続する十人の王の最初と最後をも象徴している。十という数はその歴史の試練の過程を示しており、日曜法に先立ち、そして日曜法において完結する試練は獣の像の形成である。ネブカドネザルの獣の夢の像は八つの王国を表しており、そうすることで、獣の像の試練が「八」という数で表されていることの証しとなっている。

マカバイ家の系譜の試練の歴史において、背教的プロテスタント主義の角の系譜と、アンティオコス三世に代表される背教的共和主義の角の系譜を表しつつ、これらの系譜と角は一つの角に収斂し、それは教皇制の像である。同じ歴史の中で、神のかたちは、十四万四千と表される者たちのうちに完全かつ永続的に再現される。

四十節の隠された歴史は、二節から三節に至る隠された歴史と、十節から十五節にわたる歴史の中で封印が解かれる。2025年1月20日に、トランプが七人にして八番目の大統領として就任するとき、クセルクセスとアレクサンドロス大王の間の八人の王は、獣の像の形成の到来を告げ、トランプは連続する十人の王の最初と最後を表す。

次の記事でこの研究を続けます。

そして私は、玉座に座っておられる方の右の手に、内側にも外側にも文字が書かれており、七つの封印で封じられた巻物があるのを見た。さらに私は、力ある天使が大声で『だれがこの巻物を開き、その封印を解くにふさわしい者か』と宣言するのを見た。だが、天にも地にも地の下にも、その巻物を開くことも、それを見ることもできる者はひとりもいなかった。私は激しく泣いた。巻物を開いて読むのにふさわしく、またそれを見ることのできる者がだれも見つからなかったからである。すると、長老のひ

とりが私に言った。『泣くな。見よ、ユダの部族の獅子、ダビデの根が勝利を得て、その巻物を開き、その七つの封印を解くことができる。』私は見ると、玉座と四つの生き物の中央、また長老たちの中央に、ほふられたかのような小羊が立っていた。それには七つの角と七つの目があり、その目は全地に遣わされた神の七つの霊である。小羊は進み出て、玉座に座っておられる方の右の手からその巻物を取った。小羊が巻物を受け取ると、四つの生き物と二十四人の長老は小羊の前にひれ伏し、それぞれ豎琴と、香の満ちた金の鉢を持っていた。この香は聖徒たちの祈りである。そして彼らは新しい歌を歌って言った。『あなたは巻物を受け取り、その封印を開くにふさわしい方だ。あなたはほふられ、あなたの血によって、あらゆる部族、言語、民族、国民の中から、私たちが神のために贖い出してくださったからだ。あなたは私たちが私たちの神のために王とし、また祭司とされた。私たちは地上を治めるであろう。』

ヨハネの黙示録 5:1-10